

日風園

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉

第80号 2012年9月1日

資料見聞

近現代の刀匠・森岡正吉の写真

明治9年（1876）、廃刀令の施行により、日本刀を鍛えていた各地の刀工たちは、廃業または転業を余儀なくされました。

しかし、明治33年（1900）、伝統技術の消滅を惜しんだ今村長賀や谷干城らによって中央刀剣会が組織され、伝統技術の継承を目的として、刀鍛冶や研師の養成を行なうことになりました。



写真裏に「東京刀剣會卒業刀工森岡正吉刀剣鍛錬ノ図／大正六年六月同人寄贈」とある。（正吉はこの3年後46歳で没した）

た。明治天皇が大の刀好きだったことも、こうした活動を後押ししました。

今回ご紹介する森岡正吉は、その資質を見込まれ、東京で作刀に励んだ近現代の刀匠です。佐川出身で、幕末期の刀工だった南海太郎朝尊の孫にあたります。正吉に目を付け刀鍛冶の道へ誘ったのは、同郷の大先輩・田中光顕でした。これまでほとんど知られていませんでしたが、佐川の大地主で名望家の堀見熙助も正吉を積極的に支援し、交流していたことが分かってきました。最近の調査で、正吉から熙助宛に出さ

れた書簡や葉書が相次いで見つかったのです。なかでも一番驚いたのが、正吉自身が交流記念の品として熙助に贈った2枚の写真です。

1枚目（上）の写真裏には、

「砲兵工廠御用係／宮内省御雇刀工南海太郎／森岡正吉東京小石川氷川神社境内森岡工場ニ於テ／依寺内前陸軍大臣ノ命／沐浴齋戒丹精ヲ抽ンテ、軍刀ヲ鍛錬スル所也／明治四十四年之秋（熙助裏書き）」とあります。

また、膨大な熙助の刀剣コレクションのなかには、正吉が熙助のために丹

精込めて作刀した太刀と脇差、短刀が含まれています。下の写真はひよっとしてその時のものかと色めき立ちました。恐らく広報用の写真でしょう。刀匠らしい姿が印象的です。

押し寄せる近代化の波に抗うかのように、日本の伝統文化・ものづくりの精神を刀剣のなかに見出そうとした二人。遺品のなかに、この時代を生きた人々の思いが凝縮されています。

（野本）

刀 武士の魂

備前の名刀と土佐ゆかりの刀剣

会期 平成24年10月6日(土)～11月4日(日) Ⅲ部のみ12月23日(日)まで

野本 亮

このたび、高知県立歴史民俗資料館では、高知・岡山文化交流事業第1弾として、特別展「刀 武士の魂―備前の名刀と土佐ゆかりの刀剣―」を開催いたします。

本展は、岡山県立博物館の特別協力により実現したもので、普段高知では見ることのできない備前の名刀が一堂に公開されます。

● 刀の種類とみどころ

日本刀は、その形状や寸法によって、太刀・刀・脇差(脇指)・短刀(腰刀・合口)などに分類されます。

鑑賞する時のみどころとしては、まず刀身全体の姿、形、竹まいに注目します。時代や刀工の流派により、反りの位置や刀の幅、厚み、刀の先端部の形状が微妙に異なることに気づくはず。また、刀を仕上げる時の焼き入れによって生じる刃文は一つとして同じものはなく、それが刀そのものの強烈な個性となっています。

刀にあまり詳しくない方は、まずこのような視点に立って刀と向き合っ



太刀 銘 則宗 重要文化財 岡山県立博物館蔵

金塵地家紋散系巻太刀拵 (則宗の拵) 岡山県立博物館蔵

みてください。

● I部「備前刀の世界」

国宝に指定されている日本刀の約半数は備前で生産されたものです。その圧倒的な存在感を誇る備前刀にはいくつかの特徴があります。初期の備前刀には、反りの位置が刀身中央部よりも少し下にくる「腰反り」(備前反り)の形状のものが多いといえます。また、刃文に沿って白く見える「映り」は丁子風(丁子菊のような形状)の乱映りなどが知られ、美しい備前刀の代名詞となっています。

このコーナーには、平安末期から安土・桃山期にかけて派生した各流派(福岡―文字・長船・小反派)を代表する作品12口が揃いました。同じ備前刀でも、それぞれに個性があります。じっくりご観覧ください。

なお、岡山県立博物館の他に(社)日本甲冑武具研究保存会広島県支部のご協力によりご出品いただいた備前刀もありましたので、この場を借りて謝辞を申し上げます。

● II部「土佐ゆかりの刀剣」

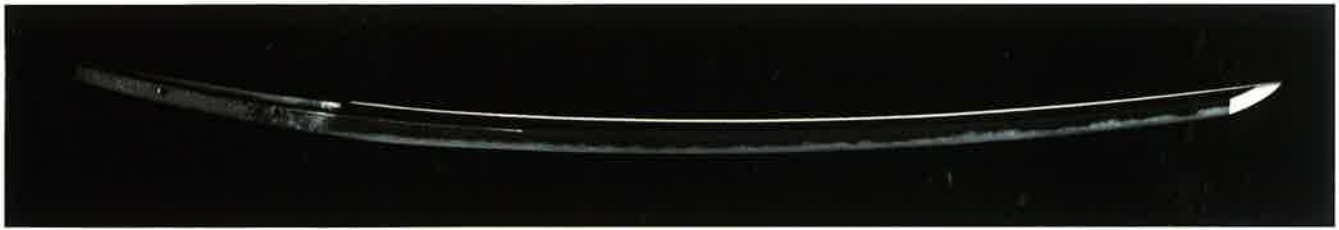
後半のコーナーでは、長宗我部氏・山内氏ゆかりの刀剣の他、幕末志士の佩刀なども広く取り揃え、高知らしいバリエーション豊かな内容を目指しました。

土佐は古来鉄資源に恵まれなかったこともあり、近世以前の刀工や作刀の事例を掴むことは非常に困難です。

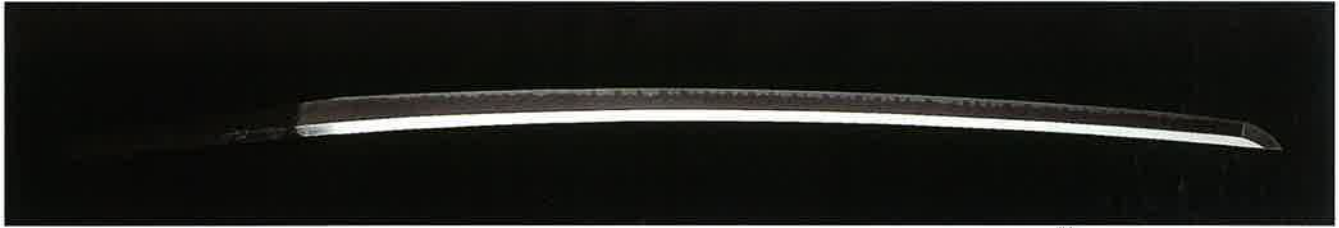
ここでは興津八幡宮に奉納されている大太刀(無銘)を皮切りに、長宗我部元親・盛親親子所用と伝わる槍(銘 助宗 初公開)と刀を展示。さらに、2代土佐藩主・山内忠義が「土佐一国にも換え難し」と言ったという「一国兼光」と、元々羽柴秀吉の軍師・竹中半兵衛が所持し、毛利勝永(関ヶ原合戦後、山内家預け)を経て忠義所持となったと伝わる兼常(美濃伝)なども展示いたします。

あくまで所縁の刀剣ですが、それぞれにロマンが感じられる資料が揃いました。

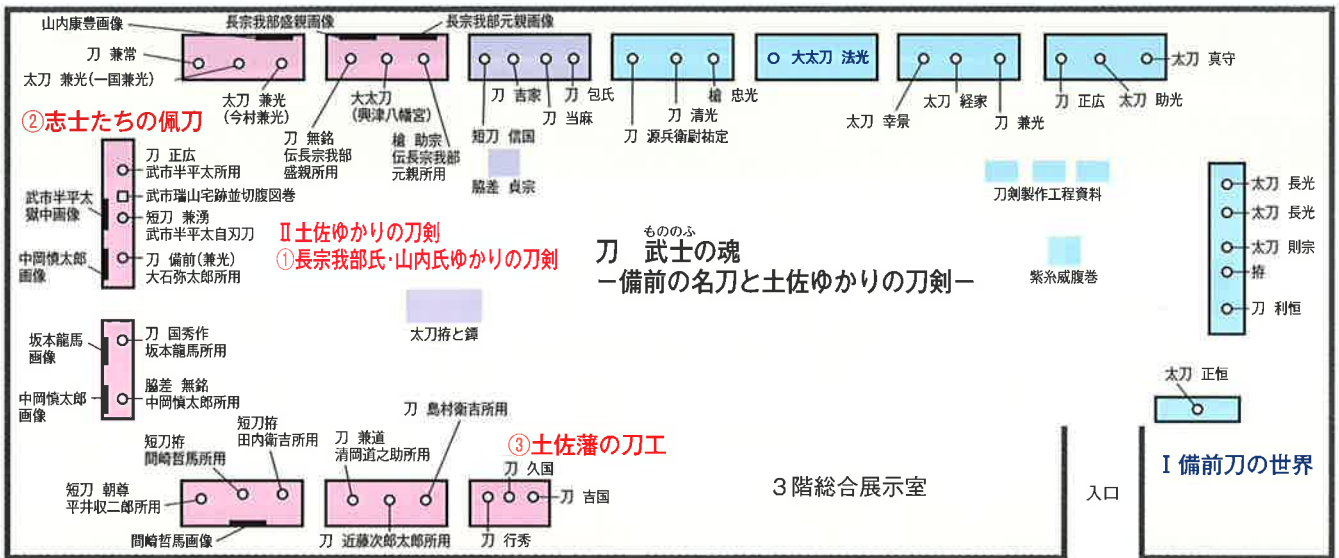
維新の志士の佩刀としては、武市半平太・坂本龍馬・中岡慎太郎・大石弥太郎(圓)・島村衛吉・清岡道之助ゆかりの差料が勢揃い。なかでも武市半平太所用の藤氏正廣は、ご子孫の特別な配慮により数十年ぶりに研磨をほどこし、見事な輝きが戻りました。他にも平井収二郎所用の短刀、朝尊も研



太刀 銘 備前国長船兼光 文和4年(1355) 重要文化財 土佐山内家宝物資料館蔵



刀 無銘 伝長宗我部盛親所用 京都市・蓮光寺蔵 抜刀戦でできたと思われる「受け傷」の痕が今に残る。



左行秀 (1813-1887)

● III部「堀見家の刀剣」
 1階企画展示室では、「堀見家の刀剣」を並行して開催します。平成4年に佐川の旧家堀見家からご寄贈いただいた約150本の刀剣のうち、特徴のある資料を特別顧問の小笠原信夫先生に選定していただきました。40本近い太刀・刀・脇差等を3ヶ月にわたって一堂に公開します。(平成24年10月6日)

磨いたしまったので、これまで確認できなかった刃文のすばらしさをご覧いただけるようになりました。
 また最後のコーナーでは、「土佐藩の刀工」と題して、新刀期から新々刀期に活躍した刀工をパネル等で紹介します。作品としては、高知県の文化財指定を受けている刀・上野守久國(堀見家資料)や、山内容堂をして「今様の正宗(鎌倉時代の名工)」と賞賛せしめた左行秀の名刀(嘉永6年)などを展示いたします。



刀(部分) 銘 於土州左行秀作 岡山県立博物館蔵

12月23日 前期・後期入れ替えあり

この一大コレクションは、堀見家歴代当主のなかで最も刀剣を好んだ堀見熙助が、師と仰ぐ土佐出身の刀剣鑑定家・今村長賀や別役成義らの指導のもとに収集したものであることが判明しました。

身幅の広い新刀に執心した熙助のこだわりによって集められた刀剣と刀装具の美を存分にご堪能ください。

なお、会期中は、講演会・講座の他、現代刀工の作品展も2階ロビーで行なわれます。



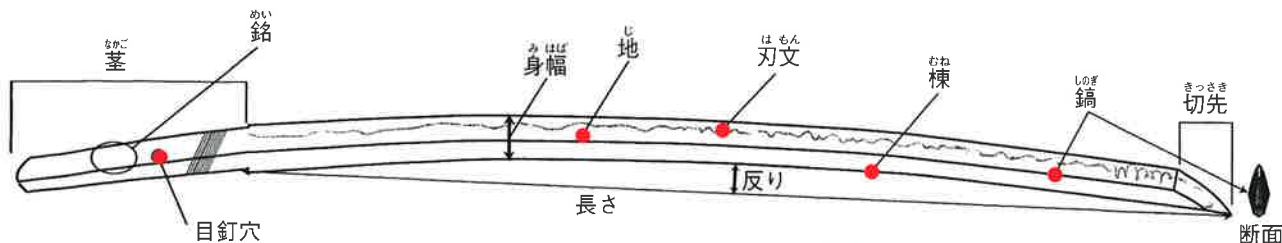
堀見熙助 (1858-1923)



今村長賀書簡(部分)堀見熙助宛 明治37年10月24日付
堀見家資料(『土佐先輩帖』)
貼紙に「新町出身刀剣鑑定家ノ泰斗 九段遊就館長刀剣会審査員」とある。「刀剣も(日露戦争のため)次第に売物に不自由になった」と嘆き、追記で依頼された奥州藤原國包(押形)の鑑定結果を伝えている。



刀 銘 山城大掾藤原國包 堀見家資料 明治39年頃、今村長賀により初代仙台國包との鑑定を受けている。



鍛錬体験

特別実演とワクワクワーク

これであなたも
刀鍛冶!?

日本刀古式鍛錬実演と 刀鍛冶体験

鍛錬の実演見学と体験、研磨見学、銘切り体験ができます。
●銘切り体験のみ申込要、先着60名、材料費要
(詳細は当館まで)



銘切り体験

古式鍛錬実演等タイムスケジュール

	10月6日(土)						
	9	10	11	12	13	14	15
古式鍛錬実演 (中庭・少雨決行)	第1回実演・体験 (参加自由)			第2回実演・体験 (参加自由)			
銘切り体験 (中庭・少雨決行)	第1回 (定員20名・要予約)			第2回 (定員20名・要予約)			
研磨実演 (ロビー)	第1回 (見学自由)			第2回 (見学自由)			
	10月7日(日)						
	9	10	11	12	13	14	15
古式鍛錬実演 (中庭・少雨決行)	第3回実演・体験 (参加自由)			午後体験・実演はありません。			
銘切り体験 (中庭・少雨決行)	第3回 (定員20名・要予約)			午後体験・実演はありません。			
研磨実演 (ロビー)	第3回 (見学自由)			午後体験・実演はありません。			

※スケジュールは都合により変更となる場合もあります。
※荒天の場合は中止になる場合もあります。
※銘切り体験は材料費が必要となります(要予約、各回定員20名)。

皆さんは刀がどのようにつくられるかご存じですか? 刀をつくるには、玉鋼(砂鉄をたかした鋼鉄)を熱して大鎚で打ちつけ、不純物をたたき出すために延ばしては折り込み、延ばしては折り込み…という大変な作業を高温の作業場で行ないます。この作業を繰り返すうちに、玉鋼は赤く光りながら燃え、火花を散らしながらだんだん刀の形になっていくのです。

このたび、全日本刀匠会の方々のご協力を得て、この刀を鍛える作業を当館で実演してもらえようとなりました。希望者には刀鍛冶体験もしてもらえます!

また、刀を研ぐところを見学したり、金属のプレートを使って銘切り(刀をつくった人が自分の名前を刀に彫ること)の体験をしたりすることもできます。あなたも刀鍛冶の気分を味わってみませんか?

(大黒)



「森正名江戸日記」に見る 鐺愛好家の交流

野本 亮

当館所蔵の杜山文庫のなかに、「森正名江戸日記」という資料があります。この日記は、四郎正名が武芸・学問修行のため、文政11年（1828）から安政4年（1857）までの期間、5回にわたって江戸に滞在した時の記録です。

日記には、御馬廻御番手としての勤務の傍ら、鐺の収集に並々ならぬ関心を示していた様子が見受けられ注目されます。

文政11年の日記を少し覗いてみましょう（高牧實「十九世紀土佐藩士森四郎の江戸勤務と生活」参照）。



八月二日

愛宕切通して勝義銘の鐺を買う。

八月二四日

神田の鐺屋を訪れ、千枚ほど見て一枚だけ買った。

九月二日

神田鐺屋惣兵衛にて、鐺二枚を五百文で買った。そのうち一枚は、菊の形が少し長ぶりの板鐺で、勝の銘のあるもの。二百文だった。

九月二二日

日比谷御屋敷の中西竹五郎を訪ね、鐺好き目利き巧者の話を聞く。鐺の刷り物を十四、五枚ほど買った。六本木、麻布で墓碑を見物し、愛宕切り通して鐺を買った。

九月二八日

中西竹五郎を訪ね鐺の話聞く。

一二月一七日

中西に誘われて下谷、本郷、小石川、牛込辺りを廻り、鐺を見てまわったが一枚も買わなかった。

※中西は江戸詰の土佐藩士と思われる。堀見家刀剣コレクションのなかに、中西竹五郎知秀の所持銘の入った刀があることが最近確認された。小烏丸造という特殊な刀を江戸在住の刀工細川正義に注文して作らせたものです。刀剣・刀装具に関しては相当こだわりのある人物だったようです。

コーナー展

「深淵神社の芝居絵屏風」を開催しました

大黒 恵理

土佐の夏を彩る芝居絵屏風。この夏も各所でお披露目されてきましたが、当館でも8月1日から31日までの1ヶ月間、コーナー展「深淵神社の芝居絵屏風」を開催いたしました。この屏風は、本誌79号でお知らせしたとおり、今年の春に香南市野市町の深淵神社よりご寄託いただいたものです。当館にお預かりしてから初のお披露目となりました。



芝居絵屏風といえは幕末の絵師・絵金（弘瀬洞意・1812～1876）が有名ですが、絵金の技法や構図を使つて弟子たちが描いた芝居絵屏風も、各地に多く残されています。深淵神社の芝居絵屏風もその一つで、一部は深淵絵金」とも呼ばれた野口左殿という弟子が描いたとされています。寄託された12点のうち、今回展示し

たのは3点。そのうち、「妹背山婦女庭訓 御殿」と「一谷嫩軍記 熊谷陣屋」は、この野口左殿が描いたといわれている屏風です。
また、「伊達競阿国戯場 かさね土橋」は、屏風の右上に「深淵村」「若連中」という文字が書かれています。



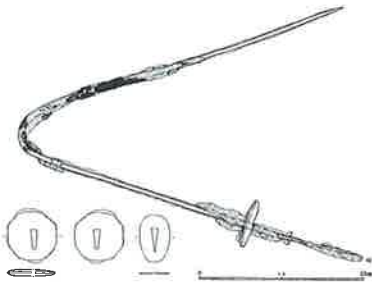
深淵には、村の若い衆が半年間の夜なべの銭を貯め、夏祭りのための芝居絵を絵金に頼んだが、画料が足りなかったため、絵金は自らの構図を弟子たちに描かせ、要所のみ補うというかたちで作品を完成させたという話が伝えられています。文献で確認することはできませんが、この屏風に書かれた文字を見ると、村の若者が銭を出し合つて屏風を仕立てていたようすがうかがえるのです。張り切つて夏祭りの準備をする人々——それは、今も昔も変わらない光景なのかもしれません。このコーナー展は、来夏以降も開催する予定です。次ほどの屏風が展示されるか、楽しみにしててくださいね。

考古

折り曲げられた太刀

―静岡県堂ヶ谷経塚の出土品―

本年度の文化庁主催の巡回展「発掘された日本列島2012 新発見考古速報」の展示が江戸東京博物館で7月29日まで開催されていました。展示室中央に静岡県牧之原市から出土した12世紀後半の堂ヶ谷経塚の遺物が展示されていました。経塚から出土する遺物には、書写した経典、経典を納める経筒と経筒を納める外容器、それらに添えて納められる鏡や刀、合子などがあります。1号経塚の出土品に、副納品の一つとして折り曲げられた太刀がありました。全長87.9cm、刀元幅3.1cmで、表面に黒漆が塗られていたようです。太刀は木炭層から出土し、刃先を上に向けて納められていました。この太刀は、鞘に納められたまま曲げられたと考えられています。太刀は、なぜ簡単に曲げられたのでしょうか。これを分析したところ、手抜きをして製作した太刀ではないことがわかりました。唯、断面には銅の錆がついていました。折れた刀を接合した銅鑢でした。この分析からこの太刀は、曲げることができるように加工して転用された



堂ヶ谷1号経塚の太刀
 (『堂ヶ谷廃寺堂ヶ谷経塚』2010年より)

折れ刀と考えられています。鑢は中が木製のハリボテでした。

参考文献・村上隆「堂ヶ谷の経塚の謎に迫る」「平安時代の折りと願い」2010年3月

(岡本)

歴史

高知県とブラジル移民

―「伯国移民原簿」から―

高知県は戦前、多くの移民を海外に送り出した県です。移民事業に尽力した人物としては、水野龍・竹村与右衛門・崎山比佐衛などが知られています。しかし、実際に高知から海外へ移住した人々についてはあまり取り上げられることがありませんでした。人々はこのように思いで海外へ旅立ったのでしょうか。

竹村殖民商館が取り扱ったブラジル移民の台帳である「伯国移民原簿」(明治43年・同45年)の家族構成を見ると、まず養子の多さに驚かされます。移民家族の約半分の世帯で養子を迎えているのです。当時、ブラジルへの移民は家族での移住が基本とされてきました。子どものない、働き盛りの若い夫婦が移民として渡航するために、養子縁組が行われていた可能性が考えられます。また、原簿に記される移民の渡航目的は農業で、契約期間は2年もしくは1年半とされています。移民の人々は永住ではなく、短期の出稼ぎのつもりで渡航したことがわかります。

このように原簿からは、人々が苦しい生活を少しでも改善したい一心で、ブラジルという未開の土地への渡航を決断したことがうかがえます。移民が自らの思いを記した資料はなかなかありませんが、今までに知られている資料から少しでも読み解くことはできないか、そのような視点で現在資料を読み進めています。調査の成果は12月以降に常設展の一部としてご紹介する予定です。

(大黒)

民俗

写真の記録・町の記憶

―高知市の過去と現在をめぐる―

昨年、四万十町在住のカメラマン・武吉孝夫さんが取り組んでいる「高知市の定点撮影」に同行しました。武吉さんは、昭和51年に半年かけて高知市域の至る所を撮影しました。にぎわう街角や郊外の田園風景などのモノクロフィルムでの写真は、およそ7千カットになり、この度、写真集『昭和51年を歩く 高知市旭』を刊行されました。平成22年から同じ場所を同じように撮影したところ、新道や新興住宅地も加えてカット数は一万点を越えたそうです。

同行した日は高知市池地区の撮影でした。35年前の写真と現在の風景を見比べて、撮影場所を探し出していききました。池地区は、住吉池の周辺や旧道沿いこそあまり変わっていませんが、高知県立大学や医療センターができて大きく変化した地域です。

しかし、武吉さんの主眼は新旧の比較ではなく、「時代」の記録です。個人の趣向を極力入れずに撮影することです。写真が集まったときにかえって時代が浮かび上がってくる、そうした写真にこそ見る人は想いを重ねられる、武吉さんはそう考えています。写真集は全7巻になるそうです。(中村)



武吉孝夫さん 高知市池にて 2011年6月12日(日)

高知県立歴史民俗資料館歴史講座

【土佐・源平の動きと平家の落人】



今年のNHK大河ドラマ「平清盛」に合わせて開催された講座で、当館では初めての連続講座です。

講師は宅間館長を中心に、高知県出身の特別講師（神戸大名誉教授・高橋昌明氏、麗澤大学名誉教授・細川幹夫氏）を迎えて、源平の頃の土佐の歴史を学びます。

来年1月まで現地巡検を含めて9回シリーズで、定員を上回る受講生の皆さんが熱心に勉強されています。現地巡検以外は受講者席を追加していますので、ぜひご参加下さい。
(猪野)

岡豊山フォトコンテスト 24年度入賞者作品紹介

前回の「岡豊風日」では、最優秀賞の渡部忠男氏の作品をご紹介しましたが、今回は優秀賞の2作品をご紹介します。



ナイト・ステージ
撮影者：半田中将氏



風の悪戯（いたづら）
撮影者：山西典夫氏

最優秀・優秀の3作品は特製額に入れて今年度中、当館で展示していますので、ぜひご覧下さい。
(猪野)

出張授業



もう少しだ。（「火おこし体験」
春野西小学校 2012年5月22日）

本年度は5月22日高知市立春野西小学校に火おこし体験に出かけました。5年生の児童42名とともに、災害時に火をどのようにしたらおこせるのか、体験してみました。ライター・マッチのないところから火をおこすのは大変です。災害時にこの体験が役に立つかもしれません。なお、今年度は高知県立歴史民俗資料館解説シート「体験No.2「火をおこしてみよう」も新しく作り変えました。

6月17日（日）には、香南市立香我美小学校の親子行事で130名を対象に勾玉作りをカルチャーサポーターさんたちと共に行ないました。いつも最後にカルチャーサポーターさん達が話をしてくれます。子どもたちの心に響くお話がとても印象的です。
(岡本)

いざなぎ流プロジェクト始動!



昨年の平成23年にいざなぎ流の伝わる香美市物部町の旧大柵高校に館蔵の民俗資料の一部を移動して以来、香美市教育委員会や地元の方々、県立大学や県外のいざなぎ流研究者と協議を進めてきました。このたび「いざなぎ流と物部川流域の文化を学ぶ会」を立ち上げ、9月23日（日）に大柵の奥物部ふれあいプラザで、第1回目のいざなぎ流研究会「いざなぎ流への招待」を開くことが決定しました。小松和彦先生（国際日本文化センター所長）のご講演や舞神楽の上演を予定しています。第2回目は11月24日（土）に、東京の和光大学でシンポジウムが開催されます。いざなぎ流を学び未来へ伝える活動に是非ご参加下さい。
(梅野)

歴史講座

「土佐・源平の動きと平家の落人」

特別講演

10月13日 13:30～

「安徳天皇の四国潜幸秘史

～安徳天皇は壇ノ浦に行っていなかった～」

講師：麗澤大学名誉教授 細川幹夫氏

9月8日 10:30～ 四国山中落人の道をたどる

11月9日 横倉山安徳天皇御陵参考地と
その周辺を訪ねて（現地巡検）

12月8日 10:30～ 安徳天皇御陵及び参考地と伝承地

1月12日 土佐源平争乱期の史跡を巡る（現地巡検）

講師：宅間一之当館館長

現地巡検以外は会場は当館多目的ホール

聴講無料（入館料要）、現地研修は実費負担要

東京写真月間
2012巡回展

2012年11月17日(土)～11月25日(日)

いざなぎ流への招待

9月23日(日) 奥物部ふれあいプラザ

臨時閉室のお知らせ



●9月25日(火)
～10月5日(金)

●11月5日(月)
～11月18日(日)

3階総合展示室は展示替えのため
上記の期間、閉室いたします。

岡豊風日（おこうふうじつ） 第80号
平成24年9月1日
編集・発行 高知県立歴史民俗資料館
〒783-0044 南国市岡豊町八幡1099-1
TEL 088(866)2211
FAX 088(866)2110

開館時間 午前9時～午後5時
休館日 年末年始12月27日～1月1日
臨時休館あり

観覧料 通常期（常設展 大人（18才以上）
450円・団体（20人以上）360円
〔特別展 企画展 常設展〕示込500円
団体（20人以上）400円

無料・高校生以下、高知県及び高知市長
寿手帳所持者、療育手帳・身体障
害者手帳・障害者手帳・戦傷病者手
帳・被爆者健康手帳所持者とその
介護者（1名）

印刷：川北印刷株式会社

http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/
Eメール：rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

特別展

平成24年度 高知・岡山文化交流事業 I

もの の ふ
刀 武士の魂

～備前の名刀と土佐ゆかりの刀剣～

2012年 10月6日(土)～11月4日(日)

Ⅲ部のみ12月23日(日)まで

平成7年以来の本格的な刀剣展です。Ⅰ部「備前刀の世界」・Ⅱ部「土佐ゆかりの刀剣」（3階）・Ⅲ部「堀見家の刀剣」（1階）の3部構成です。「一国兼光」など国重文3点をはじめ、岡山県立博物館所蔵の名刀を一堂に展示します。また全日本刀匠会中国・四国地方支部の協力により、古式鍛錬の実演や銘切り体験等のイベントも開催されます。



月に桜花に雪華透鐔
銘 忠時作（赤坂）堀見家資料

講演会 ●電話等で要予約（先着140名）

10月8日(祝)(月) 14:00～16:00

「武将と名刀(仮)」 講師：元東京国立博物館工芸課長 小笠原信夫氏

講座 ●電話等で要予約（先着140名）

10月14日(日) 14:00～16:00

「備前刀の世界」 講師：岡山県立博物館学芸員 佐藤寛介氏

特別実演とワクワクワーク ●電話等で要予約（先着順）

10月6日(土)・7日(日)

日本刀古式鍛錬実演と刀鍛冶体験

※スケジュールなど詳細は4ページを見て下さい

コーナー展



▲六原張り子(岩手県)

えと
干支の玩具



2012年
11月19日(月)～
12月23日(日)

山崎茂さんのコレクションから
来年の干支「巳」にちなんだ
蛇の郷土玩具を展示します。

展示室トーク ●予約不要・観覧券要（講師：担当学芸員）

12月1日(土) 14:00～14:30

ワクワクワーク ●電話等で要予約（先着30名） ●材料費要

11月23日(祝)(金) 14:00～15:30

巳張り子の絵付け 講師 草流舎 田村多美さん